

すぎなみ大人塾2018 高円寺コース2018

もっと高円”人”（こうえんじん） まちの”たまり場”をデザインする

学習支援者：川上和宏 市民活動プランナー・コーディネーター

平成30年10月10日（水）午後7時～9時

第2回 高円寺のコミュニティスペースの実践①

於 高円寺障害者交流館

ゲスト講師：蔵下博史店主（BOOK Cafe Diner イココチ）

I まちのシェアスペース「BOOK Cafe Diner イココチ」@東高円寺

<http://ikokochi.net/>

蔵下博史店主

みなさん、こんにちは、蔵下です。店を開いたキッカケは、たまたま散歩の途中に今の場所を見つけたからです。その後、結婚をしてから杉並区に引っ越してきました。店を開いて10年になります。お店の営業時間は8時半～18時（日、月）8時～23時（火～土）でカフェメニューはお茶のほかにお酒の提供もありますが最近は疲れ気味で早じまいもあります。

カフェは色々な方に教室や展示場として貸し出しをされていて、壁には絵が飾ってありギャラリーとしても貸して展示しています。この講座の学習支援者川上さんとは3年前に長時間お店を利用してもらって、それが縁で仲良くなりました。何かをやりたいとかいう思いがあった訳ではなく、昔、オーストラリアにワーキングホリデーで暮らしていた時期があり、リビングシェアをして1年半住んでいました。今のカフェの広さが当時のリビングの広さと似ていたことが借りるきっかけの1つになりました。カフェ[イココチ]の名前の由来は、20年程前に高円寺に「マーブル」というお店があり、そのお店で実施したイベントの名前が[イココチ]だったので、その時の思い出からつけました。皆さんに、ちょっとお伺いしたいのですが、「カフェの開業に興味がある方、将来やりたい方がいらっしゃいますか？」いらっしゃらないですか。私自身も、カフェをやるとは思わずにいましたが、色々なご縁や出会いがあり、今もカフェが続いています。思い入れや思い込みが無いほうが、案外カフェが続くのかもしれません。

人との出会いで思い出したのですが、ある日スケボーに乗ったイケメン外国人が初めて、お店に来た時にいきなり「私はアーティストなので絵をお店に飾り

たい」と言いだしたのでそれが面白いと思い、そのまま近所のホームセンターにピクチャーフレームを買いに行き、彼の絵を飾ってみたのです。その後、検索してみたら「ギャラリーカフェ」という形態のお店があるのを知り、今のようなギャラリーカフェのカタチの基礎になりました。色々な形態をやってみたいと考えてはいましたが、自分達ができることから始めてみようと思っていました。そこへ、外国人の彼が現れて、ギャラリーが生まれました。元々シェアというコンセプトでやってきましたから、これからも色々なことをシェアできたらいいなと思っています。

お店の内装はソファ席があり、棚には作家さんの作品を飾ったり、本を置いたりしています。展示写真も古本の販売もしています。お店は15人で満員となるくらいです。絵葉書展示コーナーがあり、縦1列ずつを貸し出していて宣伝はしていませんがSNS等を見た全国の方からの展示依頼があります。イココチは2週間に1回ギャラリーを変えて展示作品を販売もしています。作品や展示の仕方によってお店の雰囲気も変わっていきます。お店には投票箱が置いてあり、1位になると2週間展示が出来ます、前回1位になった方には出版社から連絡がありました。作家さんは、当店の繋がりから活動が広がったり、口コミで店に来てくれたりしています。妻も企画して、「にゃんフォト&にゃんグッズ」と猫をテーマにしたイベントを提供しています。音楽系のライブもやっていて、場所は使いたい人に使って頂くかたちです。上は住居なのですが、大家さんがうるさくても大丈夫な為、演奏もできています。フランス語教室、朗読会、お子さんを持つお父さんが子供の写真を撮り「親馬鹿写真展」開催等と利用されています。最近は、モモモスパークルさんというイラストレーターの方とコラボして2週間限定で飲み物や食事を提供しました。

学習支援者 川上和宏

街づくりは市民の人が主体になって育てていく側面がありますが、私たちみたいな個人店はお客様によって育てられています。お客様が意見を言うて下さることでニーズや気づかないところに気づきます。個人経営のお店は店主さんがOKすればお客様も利用して頂けます。私たちがこの講座で目指しているのは、そうした地域にある場所を使って、たまり場や人が集う場所、場づくりをしていくことです。

蔵下博史店主

私たちのようなカフェは場所を持ちたいとかだけでは完成はしません。お店に来た方と一緒に作っていく場を持てたら自然とたまり場になります。続けていくのが難しいのですが、その事の重要性を掲載している本は少ないです。続けるためには思いだけでは出来ません、経営的な存続していくためのフォローアップがこの講座で出会った方とできていったらいいと思います

学習支援者 川上和宏

場を持ち続けていくために必要なことはなんですか？

蔵下博史店主

お店の採算と安定した家庭をリンクするのは難しいと感じる部分があります。心とお金と時間に余裕がある方がやる場所があるなら行ってみたいです。

学習支援者 川上和宏

もしイココチさんで、何かをするために条件はありますか？例えばワンドリンクオーダーとか？

蔵下博史店主

シェアというコンセプトでやっているの、やりたいこととやらせてもらうことは対価交換と思っています。イココチの中でやりたいという思いがあっただけにかメニューオーダーしてくれたら良いです。

学習支援者 川上和宏

お店でイベントをやりやすい時間帯はありますか？

蔵下博史店主

やりたいと思ってくださる人を優先にしたいですね。ご相談してくだされば、応じる形です。今後ですが、個人的にやりたいことは別にあって、お店は手伝っている状態です。自分ができたくらいですから、皆さんにも頑張っていたきたいです。

学習支援者 川上和宏

では、受講者の方からご質問をお受けします。

受講者

レンタル料はいくらですか

蔵下博史店主

値段はきめてないので、応相談です。コミュニケーションをとりながら相談したいのです。携帯メールが苦手ですので、人と会って話したいです。そういうわけですから、お店に直接聞きに来る人が沢山いらっしゃいます。

受講者

人の夢を実現する場所、プロデューサー的な感じですが、奥様は調理経験があったのでしょうか？

蔵下博史店主

はじめはディレクターという立ち位置で仕事を関わっていました。奥さんの仕事を自分が手伝っている意識です。自分自身がフィールドプレイヤーになりたいのか、なりたくないのかが重要です。自分がたまり場の中心にいたいのか、端にいたいのかをイメージし、どんな立ち位置にいたいのか、ご自身のやりたいこととイメージをリンクさせるのが大事だと思っています。

学習支援者 川上和宏

蔵下さんからの報告はこれで終わります、今もお店が営業中なのでお帰りになります、どうもありがとうございました。拍手でお送りください。

Ⅱ 「一スペイン風バルと市民活動の店—大人の秘密基地 arcoiris」@和光の紹介

学習支援者 川上和宏

後半はうちのお店の紹介をします。初めに伝えたかったのですがイココチさんも私のお店もハードな場を運営しながらソフトな場づくりを展開している自営業だと捉えるべきだと思っています。この講座はハードな場の経営方法を勉強する場ではありません。基本は、カフェというハードの場におけるソフトな場作りを皆さんと考えることだと思っています。

私のお店の紹介をさせていただきます。今年の5月から店名がスペイン風バルと市民活動の店と名乗りはじめました。和光市を知って居る方はいますか？

和光市は、駅を出て左に行くと元素記号の道がありそのまま行くと理化学研究所につきます。ホンダ、理研のような産業とチェーン店が多く8万人位の市で

平均年齢が 39 歳でとても若く子ども連れの方が多いですが、単身層の方もいまして街の雰囲気は都心に出て帰ってきて寝るだけの方が多い印象です。2013 年 10 月に友人と会社を立ち上げまして、そこから和光市のコミュニティカフェ委託事業を行っていたのでそれを利用して 2014 年 3 月にスタッフ 5 名でカフェをオープンさせました。2014 年 10 月に委託事業が終了して委託事業の補助金が 2000 万円だったのですが、1000 万円は人件費に充てることが要件でした。

元々はソフトな場作りをしたかった。学校教育以外の子供の教育授業を NPO でずっとしていましたが、ハードな場を構えてしまうと 1000 万円の人件費を使うためには 1 日 13 時間お店を開業しなければならず、自分の時間がどんどんなくなってしまいます。補助金があるため経営力が身に付かずに、委託事業がきれた半年後には貯金がどんどん無くなっていきました。その当時スタッフ 3 人を雇っていたが、2016 年 1 月にスタッフ 2 名で再スタート。2 年以上、2 人で運営をしています。2016 年 5 月には現状の事業コンテンツを確立して、2018 年 5 月にお店の方をリニューアルしました。今まではランチ営業のみだったが、夜にバル営業を開始しました。発足してから 5 年間で出会った方々と市民活動を色々としており、毎週月曜日と火曜日が定休日、月曜日には、和光子育てネットワークという NPO 法人が事務所として利用をし、火曜日には、ねこもりカフェとして産後ケアが必要な方を支援するカフェを別の方が運営しています。

お店の名前はスペイン語で「アルコイリス」というスペイン語で虹という意味です。人と人との架け橋になるという意味と、多様性があるという意味 2 つから成り立っています。場作りにこだわっているのは、16 歳の時に兵庫で同級生が練炭自殺をして、大学時代には同級生、先輩、後輩、指導教官が自殺をしました。KY という言葉が流行ってしまった時代で、自分の言葉が無視される時代だったので私の店では空気を読まずに話せる場を作りたいとの思いがあります。お店の家賃が 15 万円で和光市では破格ですが、それでも大変です。ですから、2 つの経営方針をとっています。1 つは、たまり場創造部門（非営利）で、もうひとつは飲食事業やレンタルスペース事業として（営利）行っています。個人店舗のカフェは飲食だけでは厳しく、2 月 8 日はやはり厳しいので、そういう時に何かのイベントをいれ、その経費を助成金でまかっています。

ソーシャルイベントではどんなことをしているのかと言うと、哲学をテーマに語りあったり、外部から講師の方を呼び、話し終わった後に意見交換をしたり、ドキュメンタリー映画の公開をしています。人気のある講師の時は人が集まる

イベントができます。イベント開催時間は16時～18時にやり、終わったらみなで飲食をしています。グループワークが好きではないので、グループワークはやらず参加した人全員が交流を持てるように意識しています。たまり場は何なのかと考える時があり、昔にお互い様食堂を開催した時にみな料理中は元気に喋るが、いざ食事になると静かになってしまいました。

その時に皆で話しやすいのはどのような時かと考え、お互いが意見を出し合える場作りが大事なのだと認識しました。哲学カフェは子どもにも必要であり子ども向けのイベントもあります。今度、戦争ってどうしておきるのかを子どもたちと話しあいます。このように場作りを展開し、同じような思いの方達が集まり組織ができて新しく動いていくのがこの2、3年の流れです。お店ではポイントカードを作り、場作りをした方に「アルコールポイント」を付与します。ポイントを貯めると、お店にて使用することができます。

夜のバル営業では、店内専用掲示板を活用してスタッフやお客さんがたまり場を作っています。お客さんは場を作りたい時にスタッフに相談して許可が下りれば、お店で場作りができます。最近ではベーゴマバル、ボードゲームバル、定例会があって、やりたい方が開催しています。

今日の話のポイントは3つあります。

- 1 ハードな場作りはせずにソフトな場作りを
たまり場は人の目にふれる所に作ると良い
- 2 SNS等を使うと人の目に触れやすい（Twitterや、フェイスブック）
- 3 現代的な仕様を活用しつつ、楽しいたまり場ができれば良い

受講者

個人的な飲み会で集まるのは何人くらいですか？一般の人も入ってきますか？

学習支援者 川上和宏

うちのお店はカオスと呼ばれていて、お店の中で色々なイベントが行われているので気軽にフラッと入れます。

受講者

たまり場は自分の近くでやる方がいいのではないのでしょうか。和光市は遠いので杉並に来てくれるか疑問です。

学習支援者 川上和宏

住んでいるのは船橋で、私にとっては仕事であり、これは趣味のような仕事であります。杉並区で取り込んでいることも私にとっては重要ですね。

受講者

市からの助成金等もあったが理想とバランスどちらを重視しているのか

学習支援者 川上和宏

短時間での説明は難しいが、飲食業カフェは1000万円の売上げを超えなければ消費税の納税が無く、法人税が高くない。今年は売上げがよく1か月休める状態もできました。お金だけにとられない仕事の仕方をめざしています。

他に質問がなければ、今日の講座はこれで終わりとします。それでは、また次回のご参加をお待ちしています。今日はおつかれさまでした。ありがとうございました。